

1. 科目名 (単位数)	心理療法特論 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP6285
2. 授業担当教員	中野 真也		
4. 授業形態	講義と演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	特になし	履修形態 (通信教育)	
7. 講義概要	心理療法には様々なものがある一方で、アプローチに関わらず共通する援助的コミュニケーションのためのスキルがある。また、心理面接の場は、クライアントだけでなく、その家族や関係者さらにはカウンセラーやその所属機関など、様々な人や要因が関わっている。本講義では、様々な心理療法やその実践において求められる共通する要因を取り上げ、講義と演習を通じて、心理職として習得すべき基礎的なスキルや考え方を学ぶこととする。		
8. 学習目標	心理職において求められる心理学的支援のアプローチの実践的な基礎知識・スキル・考え方を、知識に留めずに、活用できるものとする。そのための柔軟な発想・認識論を身につけること。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 提示事例①について、さまざまな要因を考慮した上で、事実を根拠として論じつつ、所見をまとめなさい。 2. ロールプレイでの演習を踏まえて、自らの援助的コミュニケーションの特徴や課題について論じなさい。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】なし 【参考書】中野真也・吉川悟『システムズアプローチ入門 人間関係を扱うアプローチのコミュニケーションの読み解き方』 ナカニシヤ出版、2017		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 各テーマの理解度と演習への取り組み方 (現時点でうまく演習ができていくだけではなく、課題に向き合い、自分を変えようと努力していること) これまでの知識をつなげ、様々な視点を持ちながら、総合的に物事を捉えられること。 ○評定の方法 演習やディスカッションの内容・取り組みの積極性 50% レポート 50%		
12. 受講生へのメッセージ	大学院での学びと実践が効果的に行われるように、その基礎となる事柄を取り上げます。ロールプレイやディスカッション等の演習を中心とするため、主体的に参加し学ぶことを心がけてください。		
13. オフィスアワー	初回の授業で通知する		
14. 学習の展開及び内容	【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】		
テ マ 1	心理療法と援助的コミュニケーションの基礎・入口 (第 1 回～3 回)		
	【学習の目標】 様々な心理療法に共通する要因と、それを促進する援助的コミュニケーションについて理解し、ロールプレイ等の演習を通じ体験的に学ぶこと。 【学習の内容】 心理療法の共通要因、相互作用としての会話・コミュニケーション、相手を理解することークライアントの内的準拠枠を共感的に理解することー、カウンセラーとクライアントの関係性 【キーワード】 援助的コミュニケーション、相手を理解する、治療関係 【学習の課題】 表面的な理解に留めずに、内的準拠枠を理解すること。 【学習する上でのポイント】 導入としての講義を踏まえて、ロールプレイの演習を通じて、体験的に学ぶこと。自分のコミュニケーション上の特徴を知ること。		
テ マ 2	主体的な援助的コミュニケーションの実践 (第 4 回～7 回)		
	【学習の目標】 クライアント役をつくり演じることで体験的理解を図るとともに、分からないことを聞き理解すること、基礎的な情報収集を実践し、主体的な援助的コミュニケーションを習得すること。 【学習の内容】 クライアントロールを作成し、クライアント役を演じてみる。分からないことを聞き、相手の語りを受け止め、共有して理解を確認すること。基礎的な情報収集を行い、客観的事実と主観的認識を分けて捉えること。 【キーワード】 クライアントロール、情報収集 【学習の課題】 クライアントロールを作成し、人がどのように生活し、行き詰まり、臨床的な問題が生じるかを想定できるようにする。自分なりに主体的な情報収集を行えるようにする。 【学習する上でのポイント】 自分あるいは身近な例から、整合性のあるストーリーを作成すること。安易な理解に留めず、分かっていることと分からないことを分けて考えられること。客観的事実と主観的認識を分けて捉えること。		
テ マ 3	セラピーの場の構成とニーズ、カウンセリングのプロセス (第 8 回～11 回)		
	【学習の目標】 心理面接を実施する上で、関与する要因としての基礎的な事柄を押さえ、ペーパーワークやディスカッション、ロールプレイなどを通じて、概要を理解すること。 【学習の内容】 セラピーの場に寄せられるニーズを考慮すること、面接以前のクライアントや関係者の動き (来談経緯と来談ニーズ)、心理職の所属機関とそこでの役割、事前情報の活用、クライアントと出会いやりとりを始める、一般的なカウンセリングのプロセスについて。 【キーワード】 セラピーの場に寄せられるニーズ、場の構成要因、カウンセリングプロセス 【学習の課題】 セラピーの場の構成に関する要因を考えられるようにすること。心理面接開始時に、来談ニーズを考慮した対応ができるようになること。 【学習する上でのポイント】 セラピーの場のみを見るのではなく、それに至るクライアントの生活や過程、関係者の動きなどを知ること。それを踏まえた心理職の役割を考えること。		
テ マ 4	さまざまな要因を考慮し、総合的・立体的に捉える (第 12 回～15 回)		

- 【学習の目標】 様々な情報を部分に切り離して見るのではなく、それらが関わり合い・つながっているものとして総合的・立体的に捉えること。それに至るために、どう考え、話を聞き、展開していくかを自分なりに想定できるようにすること。
- 【学習の内容】 発達の視点（個人と家族のライフサイクルと発達課題）の理解と活用、クライアントと関係者の関係を捉える、BPSモデル（生物・心理・社会モデル）とそれぞれの関係、総合的なアセスメントとそのための手立てなど。
- 【キーワード】 発達の視点の活用、BPSモデル、アセスメント
- 【学習の課題】 発達の視点の習得と活用、自分の視点を広げること。
- 【学習する上でのポイント】 時間的な縦軸としての発達の視点と、横軸としてのクライアントの生活環境を捉えること。そこでの様々な要因をつなげて、立体的・総合的に人を理解できるようにすること。